白道のカミーノ便り

レイコとマット①

同類の香りを持つ仲間

我が家から歩いて数分のところに住むアメリカ人のミンディさんが、すてきな若いカップルを連れて来た。オーストラリアのシドニー在住で、美郷町の実家に里帰り中の岡本礼子さんとマットさんである。

マットさんは高校の時に日本に留学して以来、日本には5～6回来ているが、美郷町に来たのは初めてである。日本語もうまい。

彼の職業はアキュパンクチャー（鍼灸師）。日本では目立たないが、欧米では増えている。村人から「オーストラリアにも、日本人がえっと（たくさん）住んでるだろうから商売になるんかな？」と尋ねられた。

我が工房で陶器をつくる２人＝筆者撮影

インドのアシュラム（瞑想道場）などで出会った欧米の鍼灸師は、様々な国の技術をミックスした人が普通で、特に日本人だけを対象にしたものではない。

若いカップルは数日間、我が工房に通い、陶土との触れ合いを楽しんだ。礼子さんの髪を見て「沖縄の人のようだね」と言うと、沖縄の旅の話を聞かせてくれた。マットさんに「インドでは、こんな髪の人が多いね」と言うと、インドの旅の話になった。

工房の音楽専用のパソコンには、ベアトリーチェやミケランジェロが持ってきた曲やキューバで仕入れたものなど、4千曲ほどの音楽が入っていて、いつも仕事場に流れている。

礼子さんは、トム・ウェイツの音楽に強くひかれたようだ。マットさんは、過激で陽気なマヌ・チャオも知っていた。

彼らがシドニーに向かう朝、音楽の入ったＤＶＤを渡した。久しぶりに、同類の香りを持つ仲間に出会った気がした。（つづく）

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。